

研究課題名：

『御定洪翼靖公奏藁』を通して見た近世朝鮮社会の総合的研究

研究期間：

令和 8 年 (2026 年) 4 月 から 令和 11 年 (2029 年) 3 月まで (3 年間)

研究目的：

『御定洪翼靖公奏藁』は朝鮮国王英祖とその宰相・洪鳳漢との対話を、英祖の孫であり洪鳳漢の外孫でもある正祖の御命により分類編集した史料集で、特に、

- ① 正祖御撰の序がそれぞれの制度の概要を簡潔にまとめていること。
- ② 英祖と洪鳳漢との対話を通して政策決定の過程を生き生きと記録していること。
- ③ 策定された制度の施行細則（節目）を数多く収録していること。

などの点において、朝鮮後期の政治・社会・経済を理解するための必読の文献といえる。

しかしながら本書の内容は多岐にわたり、一個人による分析には限界がある。そこで、本研究では『御定洪翼靖公奏藁』を会読のテキストとし、朝鮮後期史に関心をもつ多様な分野の研究者を広く公募して総合的に研究を進める。